

## 2-15 トラブルからの信頼回復

### ～事業による地元観光施設への影響～

#### 1. 立場と仕事

政府系法人に入社13年目のこと。ある湖沼を管理する出先事務所で環境業務を担当する課長だった。当該事務所においては、湖沼の堤防整備等を実施したのちに、湖の水位を従来から30cm上げて管理することで水資源の開発を行う予定であった。

#### 2. 遭遇した事態

堤防整備が完了した年は、環境に配慮して湖の水位を10cmだけ上昇させて管理していた。一方、事業箇所近接する公園においては多くの植物を栽培しており、例年イベントを開催し、多くの観光客が訪れていた。

イベントが差し迫ったある日、イベントの主役といえる植物である“あやめ”の多くが根腐れする事態が発生した。自治体より、「原因は事業による水位上昇である」と追及された。

原因追究と対策が必要となったが、イベントも間近に迫っており、時間的余裕のない中で自治体が納得する方法による解決が迫られた。また、本事業は整備が完了して管理に入った状況であったため、対策費用の捻出について懸念も生じた。

#### 3. 対応内容とその結果

通常であれば原因追究ののちに対策を検討する手順を踏むが、今回は公園でのイベントが差し迫っていたため、応急対応として“あやめ”の植え替えを先行して実施し、イベントが終了した後に原因究明と恒久的対策を検討することにした。これにより、イベント自体は問題なく開催することができた。

調査の結果、湖の水位を10cm上げたことにより、“あやめ”園から河川への排水口位置が水位より下になってしまったことが原因であると判明した。

単純に排水口位置を上げるだけの対策では排水不良が解消されないことが分かったため、水路を新設し、ポンプを併用することにより排水を促進する計画を立案した。水路については、今後のイベントにおいて通路として利用されることを想定し、上部に木蓋を配置することとした。対策費用については、当該自治体との従前からの良好な関係や将来的なメリットを組織内に説明し、全額確保することができた。

この結果、従来は畦道を歩きながら“あやめ”を鑑賞していたイベントが、水路木蓋による「木道」ができたことで、靴を汚すことなく、車椅子でも安心して鑑賞できるようになった。このことも含め自治体から大きな理解と評価を得ることができ、その後の施設管理は自治体が行ってくれることになった。

この経験において留意したのは、事業が管理に入った状態での補償対応であり、今後の管理も含めて自治体に引き渡す必要があったことである。

現状よりもっと良いものを納めることができるよう、こちらの条件と相手のニーズを満たすための最適な案を導くことができたと考えている。